

マネージメント情報

※ 消毒について

先日、Zenoaq 主催の北海道しゃくなげ会に出席してきました。畜舎環境消毒の大家である横関正直先生(食品・環境衛生研究所主宰)の発表の中から踏み込み消毒槽の効果について興味ある報告がありましたのでお知らせします。

結論からいうと、消毒薬に効力があっても踏み込み消毒槽には効果がないということでした。

その理由は先生の実験で踏み込み消毒槽に3秒(現実的な踏み込み時間)踏み込んだ後に直ちに滅菌綿棒で底面の一定面積をふき取り培養した結果消毒液自体には殺菌力があっても靴の付着細菌は除菌できなかったということです。(図-2)

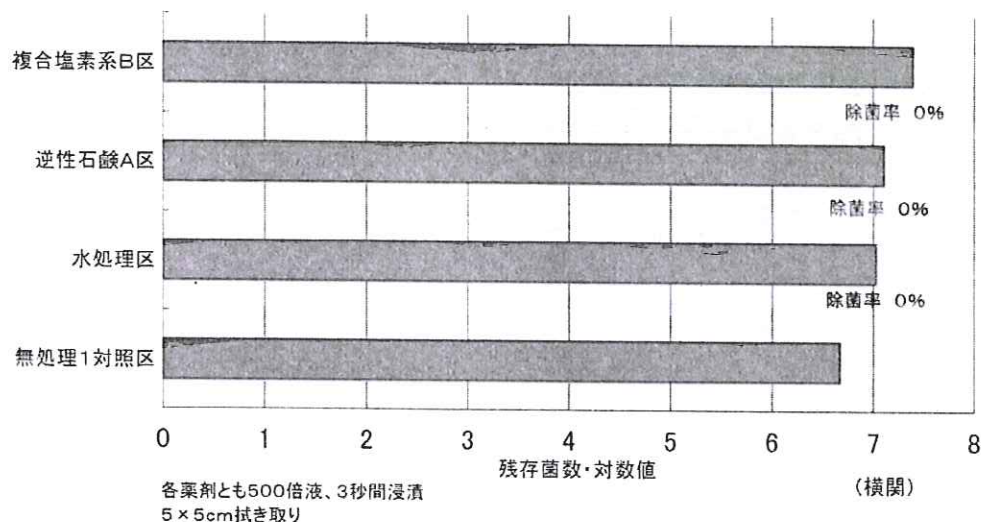


図-2 踏みこみ消毒の効果(普通靴、総菌数)

消毒薬の効力(殺ウイルス・殺菌力)と消毒の効果とは区別しなければならないという事です。基本的な消毒薬の性質について整理します。

○消毒薬がなぜ菌を殺せるのか

消毒薬が菌を殺せるのは、消毒薬の分子が直接に菌体に接触するからである。

これを「直接接触の原則」という。この原則は抗生物質や抗菌剤でも同じでこの薬剤分子のランダムなブラウン運動により浮遊している細菌と衝突し、菌壁の破壊、菌体内物質の変性、酵素作用の阻害等により殺菌する。

○消毒薬の効果の三大要素

濃度…濃度が高ければ殺菌効果は高い

温度…温度が高いほど分子運動は激しくなる

水だけでも 80℃以上に温度を上げると消毒効果がある(煮沸消毒)

作用時間…接触時間が長いほど分子と菌体が衝突する回数が増える

pH(これを入れると四大要素)…薬剤の至適pH が異なる

12月のこの欄で冬季間の消毒方法について紹介しましたがある意味間違いということになります。

ではどうしたら良いか?ということになりますが、実効ある方法は履き物の交換ということです。

われわれがみなさんの農場に長靴とツナギを置かせていただいておりますが、この方法にまさる方法は無いようです。

畜産現場に病原微生物を持ち込む一番機会の多い媒体は履き物です。その履き物による病原微生物侵入防止策は履き物の交換!!!!です。

農場に出入りする THMS 以外の関係者(NOSAI 獣医師、人工授精師、普及員、業者…etc)用に

も是非、長靴を複数用意し履き替えてもらう事を徹底することが防疫の第一歩かとあらためて考えさせられました。



以前にも紹介しましたが、S農場さんの長靴の保管状況です。

サイズごとに用意しており、写真の様に常にピカピカです。因みに靴底にも糞はついていません。

・今回参加した北海道しゃくなげ会に昨年退職した阿部獣医師が蹄病の予防と対策について講師として発表しました。THMSにいたときと変わらず元気に阿部紀次でした。話した内容はTHMSにいたときの蹄病の仕事が中心でしたので、みなさんによろしくとの事でしたのでお知らせします。

・今年の冬は12月から牛舎内の凍結が始まり例年になく寒い冬でしたがここに来てずいぶん暖かくなってきました。やはり季節はちゃんと巡り、明けない夜はないし止まない雨もないということですね。

・前々回(1月)のM情報に書きました育成管理どうでしたか?早速視察に行きたいというお客さんがいて視察後の感想(メール)をそのまま紹介します。

「施設じゃないんだなあ。と思いました。人の心が牛を育てるんだなあと思いました。」というメールをいただきました。

全くそのとおりだと思います。人も牛も同じですね。家族、従業員との関わりについて相談を受けることが良くあります。

「心」ですよ「心」
みなさんどうでしょうか?

・新年度を迎えますがTHMSは補充も欠員もなく現在の体制のままです。まだまだみなさんの期待に答えられないところも多々あるかと思っていますが気づいた事や希望がありましたら遠慮せずになんらとおっしゃって下さい。

春到来です。今後いろいろな事が待ち構えているでしょうが心機一転頑張りましょう。